

面

たさしあふのきて顔ふりあげたるもわるしもとよりこくびひねりてやうありげなるも見にくしなにとなげにてうらくとむかひたるぞよき

〔徒然草上〕此僧都ある法師を見て、玄ろうるりといふ名をつけたりけりとは、何物ぞと人のとひければ、さる物を我もえらす、もしあらましかば、此僧のかほに似てんとぞいひける。

〔松屋筆記 九十〕厚顔。鐵面皮つらの皮千枚張

俗に耻を知らざるを、ツラノ皮ガアツイ、又ハ千枚張の顔、又ハ厚顔鐵面皮などもいへり、源平盛衰記十八卷四丁文覺頼朝勸進謀反條に、面張牛皮ノ童ニテ、心シブトク聲高ニシテ云々、

〔詩經小雅巧言〕荏染柔木、君子樹之往來行言、心焉數之、蛇々頌言、出自口矣、巧言如簧、顏之厚矣、

〔伊呂波字類抄於人體〕面オモテ、面テ、面説文

〔和漢三才圖會十二〕面音、面和名、面於毛

凡物皆有背有面、而人眉間之間曰顔、髮際前曰額、耳前動處曰顙、顙一名骨、即兩太陽也、

〔視聽草初集四〕冷暖面略

讀法

人面遂高低、開口如咲世、世情看冷暖、閉口似怒人

此面下ヨリ見レバ喜アゴトク、反テ上ヨリ見レバ怒ルガゴトシ、

〔古事記垂仁〕故天皇不知其之謀、而枕其后之御膝、爲御寢坐也、爾其后以紐小刀爲刺、其天皇之御頸、

略○中 泣淚落溢於御面、

〔古事記傳二十四〕御面は意富美、淤母と訓べし、師賀茂眞淵は十九に、面輪十九に、御面謂之、美れき、其は萬葉九又

ばなり、されど於母和とは、面の、状態を云と、提は、是も其状態を云言なり、たゞ何となく云と、謀提とある、此は後を字志呂傳と云と、同く提は是も其状態を云言なり、たゞ何となく云と、於謀は、淤母で、正、天皇の大御面なり、しき名なる、